

前回分科会における主な意見（論点ごとに整理）

【論点①】

現在敬老乗車証を利用されていない方もメリットを感じ、今後利用したいと思える制度を構築すべきではないか。

○制度がなくなって高齢者がひきこもるようになっては困る。低所得の高齢者は多い。高齢期の社会活動を支援する制度であってほしい。

○制度創設当初から時代が変わっている。現行制度は、高齢者対策、交通政策、低所得者対策等の目的や価値観が混在している。

○負担の公平性と、地域ごとの公平性の二点が柱となる。

○IC カード化を前提とするかどうか。IC カード化すれば利用実態が正確に把握でき、無駄が省けて、かつ利便性も高くなる。



【論点③】

事業費を増大させず、かつ単純な値上げ等に伴う交付率の減少を避けるには、どのような制度が望ましいか。

○応能負担によって交付率が下がる。財政難でまた値上げすれば更に交付率が下がる。

○交通事業の観点からは応益負担（受益に応じた負担）が基本。神戸市のように選択肢が増えると交付率は上がる。選択肢を増やしてかつ制度の簡素化を。

○応益負担を検討するとしても低所得者が排除されるような制度はだめ。



【論点②】

多様な利用方法に沿ったメニューを用意し、必要なサービスを確保するための検討が必要ではないか。

○一律に全線フリーパスではなく、利用実態に応じた多様なメニューを用意してはどうか。

○交付率の高い他都市の制度を参考にすべき（3委員が神戸市の制度に言及）。

○どんな選択肢を用意するかと、市がどれだけ負担するかは別の問題。実態調査を実施して事業費負担を検討すべき。

【論点④】

市内のどこにお住まいであっても、公平で利用しやすい制度の検討が必要ではないか。

○地域で交通事情が異なる。不便な地域の方にも使いやすい制度であるべき。

○交通網の違いによる周辺地域の不公平感を解消しないと交付率の上昇も期待できない。